

親の会のご報告

5月15日飯田橋ボランティアセンターA会議室にて14回親の会が開催されました。開始5分前になってもスタッフ以外どなたもお越しにならないので今日の参加はないのかしら？と思っておりましたが予定時刻になると10名の出席で初参加の方もあり、活発な意見交換が行われました。話題の一部を紹介します。

◎女性ホルモン治療を始めたけれどあまり変化が無いようだ。

◎社会人として働き始めたが適応能力が低いのか3か月試用期間でくびになってしまった。

◎学習能力は努力すれば必ず伸びるものばかりではないと検査結果で判明しました。早めに対策

(通級や支援級など)を考えることは本人の心の健康にとって大切と思います。

など年齢に応じて悩む事例は様々でした。親の思いを話して分かち合えるこの企画では問題解決にはならないかもしれませんが、ターナーのお子さんを持つ親同士仲間として話すことで皆さんから元気をもらうことができました。



参加された方々より感想をいただきました。



■ M 様 (母)

小学6年から参加させて頂いて、お陰様で今年で高校3年となりました。その間、卵巣摘出手術、真珠腫性中耳炎の手術を3回経験し、歯の矯正を含めると、病院通いの7年間でした。身長もまだ145cmで伸び止まりとなっていますが、これからは身体の悩みと同様に、将来の仕事に向けての進学も不安となっています。娘は看護系を目指していますが、先輩の話聞いてマイペースなだけに、学力もコミュニケーションもかなり苦労するだろうなあと感じました。また参加の男性の特別支援の現状や持病の耳鼻科の情報もとても参考になりました。

これから世の中で通用するよう、親として過保護になりすぎない程度に支えていってあげたいと思っています。毎年どんなに少人数でも変わらず一生懸命アドバイスをくれる役員の方々に本当に敬意を表します。ありがとうございます。これからも私たちの知らない新しい情報を是非教えていただけたらと思います。